

= 受賞 =

菅原宣義准教授 澁澤賞を受賞

(電気電子工学科)

このたび、電気電子工学科准教授菅原宣義氏が、社団法人日本電気協会より「第 52 回澁澤賞」を贈呈されました。

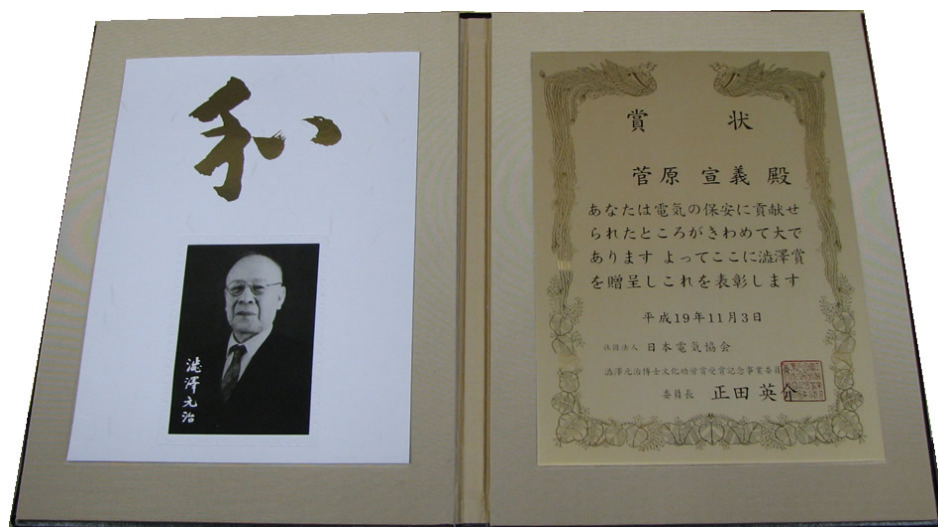
澁澤賞は、故澁澤元治博士が昭和 30 年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念するため、昭和 31 年に設けられたものです。わが国の電気保安行政の礎を築いた博士の崇高な志を受け継ぎ、広く電気保安に優れた業績を上げた方々に毎年贈られており、民間で唯一の電気保安関係表彰として各界より認められている権威ある賞で、毎年 11 月3日の文化の日を受賞者の発表が行われます。

菅原准教授は、酸素治療タンク内での電気火花による火災原因の研究、沿面放電の基礎研究をし、1983 年頃からは着氷雪がいし連の絶縁に関する調査・研究を行ってきました。本学では、着氷雪がいし連の実験装置を構築、その後の各電力会社等との共同研究を通して、電気設備の着氷雪問題に対する観測・評価システムを開発すると共に、多くの研究成果を電気学会や国際学会に発表してきました。また、



澁澤賞を受賞した菅原准教授

北海道電力所有の落雷データ 10 年間分を解析し学会で発表するなど、自然環境下における電気設備問題に関する研究を続け、その専門性は国内外の研究分野で高く評価されています。このような長年に渡る功績が評価され、今回の受賞となりました。



第 52 回澁澤賞の賞状

情報システム工学専攻2年 木村祐司君、国際会議で Best Student Paper Awardを受賞

(情報システム工学科)

博士前期課程情報システム工学専攻の木村祐司君（柴田研究室）が2007年10月にオーストラリアのシドニーで開催された国際会議（IEEE主催 ISCIT2007 第7回通信と情報技術に関する国際シンポジウム）にて発表しました論文に対して、Best Student Paper Award を授与されました。

受賞論文は、Blind Detection of Dual-Rate DS-CDMA Signals over time-Variant Channels（共著者：柴田孝次、酒井考和、中垣 淳）です。

この論文は、異なる情報速度を有するデータをスペクトラム拡散技術により伝送した場合における信号検出方法の研究結果を述べたもので、時間的に特性が変動する通信路の出力から、送信された信号（情報）をブラインドに推定する新しい方法を示しています。

今回のシンポジウムでの発表論文数は297件で、日本、中国、アメリカ合衆国、英国、フランス、オーストラリア、韓国、タイ、マレーシア、フィンランド、イタリア、インドなど、世界32カ国からの参加がありました。このシンポジウムにおいて、Best Student Paper Awardを受賞したのは、木村君とAustralian National Universityの学生2人です。

主催学会のIEEEはアメリカ合衆国に本部がある、情報・電気・電子関連分野の学会で、世界160の国に37万人以上の会員を有し、8万人以上の学生会員を含む非営利団体です。IEEEの名称は、組織の当初の成り立ちから「電気電子技術者の組織」を意味しますが、

今日では、非常に多くの関連技術分野において、その活動範囲が広がっております。

受賞論文を発表したISCITは、現在IEEEが主催で日本の電子情報通信学会IEICEとタイの情報通信学会ECITが共催の、通信と情報技術に関する国際会議です。ISCITは、通信と情報技術の理論と応用の進展を目指して開催されることになった学会で、これまでタイ、日本、中国、オーストラリアで開催されてきました。参加研究者の分野は通信とネットワークワーキング、信号処理、VLSI、回路とシステム、コンピュータと情報システムとなっております。

論文集は、2004年からIEEE Xploreに掲載されています。



Best Student Paper Awardを受賞した
木村祐司君